

■コメント

1. ヘルパンギーナ

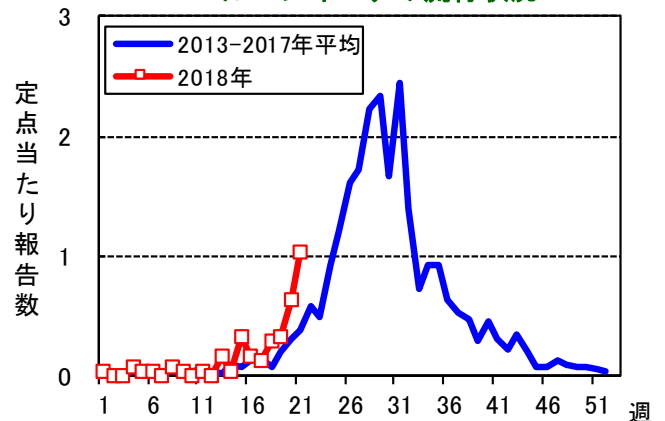
定点当たり1.04人の報告がありました。ヘルパンギーナは、発熱と口の中の粘膜に現れる水疱性の発しんを特徴とするウイルス性の感染症です。乳幼児を中心に夏季に流行がみられ、咽頭結膜熱・手足口病とともに、いわゆる「夏かぜ」の代表的な疾患となっています。

広島市では、手足口病、ヘルパンギーナが増加傾向にあり、注意が必要です。特に、保育園や幼稚園などの集団生活の場では、感染を広げないために、手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルを共用しないなど、感染予防対策を心がけましょう。

2. 日本紅斑熱

1件の報告がありました。(次頁参照)

ヘルパンギーナの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(過去5年間)	発生記号
小児科	インフルエンザ	6	0.16	0.27		小児科	流行性耳下腺炎	6	0.25	0.64	
	咽頭結膜熱	22	0.92	0.66		眼科	RSウイルス感染症	6	0.25	0.15	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	84	3.50	3.42			急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	155	6.46	7.86			流行性角結膜炎	12	1.50	0.77	
	水痘	7	0.29	0.85		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	42	1.75	1.51			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.16			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	0.08	
	突発性発しん	8	0.33	0.67			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	25	1.04	0.38			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.14		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	60	男性(80歳代)
4	日本紅斑熱	1	1	男性(80歳代)・市外
4	レジオネラ症	1	5	男性(60歳代)
5	アメーバ赤痢	3	6	男性(50歳代)・1人、男性(50歳代)・推定感染地域: 国外・1人、男性(60歳代)・1人
5	梅毒	1	39	男性(30歳代)
5	百日咳	1	12	男性(50歳代)

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶血性 レンサ 球菌咽頭 炎	感染性胃 腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性発 しん	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺 炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(ロタウ イルス) 感染性 胃腸炎
報告 数	広島市	第17週	28	13	79	282	6	5	1	11	3	3	9	-	19	-	-	-	-	20
		第18週	7	7	32	140	1	9	1	2	7	8	12	-	9	-	-	-	-	23
		第19週	12	22	58	208	4	11	-	16	8	4	4	2	6	-	-	-	-	6
		第20週	3	21	66	198	2	31	-	9	15	9	6	-	12	-	-	-	1	4
		第21週	6	22	84	155	7	42	-	8	25	6	6	-	12	-	-	1	-	1
定 点 当 た り	広島市	第17週	0.76	0.54	3.29	11.75	0.25	0.21	0.04	0.46	0.13	0.13	0.38	-	2.38	-	-	-	-	2.86
		第18週	0.19	0.29	1.33	5.83	0.04	0.38	0.04	0.08	0.29	0.33	0.50	-	1.13	-	-	-	-	3.29
		第19週	0.32	0.92	2.42	8.67	0.17	0.46	-	0.67	0.33	0.17	0.17	0.25	0.75	-	-	-	-	0.86
		第20週	0.08	0.88	2.75	8.25	0.08	1.29	-	0.38	0.63	0.38	0.25	-	1.50	-	-	-	0.14	0.57
		第21週	0.16	0.92	3.50	6.46	0.29	1.75	-	0.33	1.04	0.25	0.25	-	1.50	-	-	0.14	-	0.14
	全国	第19週	0.42	0.62	2.85	6.74	0.52	0.43	0.13	0.64	0.05	0.20	0.25	0.03	1.17	0.03	0.02	0.14	0.01	0.29
		第20週	0.40	0.64	3.13	7.38	0.35	0.76	0.26	0.58	0.08	0.18	0.30	0.03	1.10	0.01	0.03	0.18	-	0.28

* 百日咳は、2018年1月1日から5類感染症(全数把握疾患)に変更になりました。

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
流行性角結膜炎	結膜炎	69	男	2018/04/17	結膜擦過物	アデノウイルス85型
その他の呼吸器疾患	紅斑 咽頭炎 眼脂	1	男	2018/04/16	咽頭拭い液	ライノウイルス
その他の消化器疾患	腹痛	1	男	2018/04/15	糞便	アデノウイルス5型
その他の消化器疾患	発熱(38.4) 下痢 腹痛 腸重積	2	男	2018/04/16	糞便	アデノウイルス2型
その他の疾患	発熱(39.1)	0	男	2018/04/04	鼻汁	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう！

-日本紅斑熱／重症熱性血小板減少症候群(SFTS)／つつが虫病-

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニに吸着されることにより、2～8日の潜伏期間を経て、頭痛、発熱、倦怠感を伴い発症します。発熱、発しん、ダニの刺し口が三大特徴です。患者の多くは、マダニの活動が盛んな春から秋にかけて発生しています。

また、SFTSやつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

・山や草むらに入るときは、**長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子を着用するなど、皮膚の露出を少なくする。**

・屋外活動後は入浴し、**ダニが付着していないかチェックする。**

ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、発熱等の症状が出た場合は内科等を受診してください。

6月1日(金)～6月7日(木)はHIV(エイズ)検査普及週間です！広島市では、HIV検査普及週間に合わせ、臨時検査を実施します。検査日程は、広島市のホームページ(<http://www.city.hiroshima.lg.jp/www/contents/1123576563958/index.html>)からご確認ください。【問い合わせ先】健康福祉局 保健部 健康推進課(電話:082-504-2622)

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2018年第21週(5月21日～5月27日)